

成人キャリア発達に関する調査研究
－50代就業者が振り返るキャリア形成－

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

The Japan Institute for Labour Policy and Training

ま え が き

人口減少下において、働く意欲と能力をもつ全ての人々が、職業能力を蓄積・発揮していくことが、活力ある豊かな経済社会の実現のための課題となっている。

従来、キャリアガイダンスをはじめとするキャリア形成支援に対する議論は、若者、女性、高齢者等の労働市場の参入・再参入層、引退層が主な対象であった。しかしながら、個人の生涯にわたるキャリア形成、社会全体の活力の維持・向上の両側面からみれば、労働市場の中堅である成人層が、キャリア形成支援対象者として改めて注目される。

成人層が生きている中期キャリアにおいては、外的・客観的なキャリアが多様化し管理職への昇進等の有無を含んだキャリアの節目を迎え、それに伴う内的・主観的なキャリアの再構成が行われる。その際のキャリア葛藤を後期キャリアの展開に向けて、客観・主観の両面から再構成するところに、中期キャリアの課題があると捉えられる。この再構成がうまくなされず、成人層が活性化されないならば、労働力の質的低下、ひいては社会全体の活力の低下をもたらすと懸念される。

以上の問題意識を持ち、本報告書では、おもに50代の就業者を対象に、50代の就業者が自らのキャリアを振り返った際の外的・客観的なキャリアを押さえつつ、内的・主観的なキャリアに焦点を当て、その内容とキャリア形成支援上の問題点を検討することとした。

そのため、調査は、外的・客観的なキャリアや現在の満足感、ライフイベントなどを尋ねた他、ライフライン法、自由記述等の手法を用いて質的データを収集する内容とした。特に、ライフライン法により描かれた曲線に係る大量データの収集と傾向分析は、わが国初のものであると言っても過言ではない野心的な挑戦であったが、幸いにして質問の主旨を理解いただき、多くの貴重なデータを収集することができた。

本報告書では、上記調査結果をもとに、客観的なキャリアと主観的なキャリアの関連性、成人キャリアの多様性、質的アセスメントの可能性等を示し、今後の成人キャリア支援施策及びキャリア・コンサルティング技法等に関する若干の示唆を行った。

本報告書が、今後の成人キャリア支援推進の基礎資料を提供するものとなるとともに、キャリア・コンサルティング等における支援ツール検討の一助となるものになれば、幸いである。

2010年3月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 稲 上 毅

執筆担当者（執筆順）

氏名	所属	執筆担当章
西村 公子	労働政策研究・研修機構 統括研究員	第1章1～2、 第7章
下村 英雄	労働政策研究・研修機構 副主任研究員	第1章3～4、 第4章、第5章、 第6章
深町 珠由	労働政策研究・研修機構 研究員	第2章
室山 晴美	労働政策研究・研修機構 主任研究員	第3章

生涯キャリア発達研究会

西村 公子	労働政策研究・研修機構	キャリアガイダンス部門統括研究員
松本 純平	労働政策研究・研修機構	キャリアガイダンス部門特任研究員
長縄 久生	労働政策研究・研修機構	キャリアガイダンス部門主任研究員
室山 晴美	労働政策研究・研修機構	キャリアガイダンス部門主任研究員
深町 珠由	労働政策研究・研修機構	キャリアガイダンス部門研究員
下村 英雄	労働政策研究・研修機構	キャリアガイダンス部門副主任研究員
川崎 友嗣	労働政策研究・研修機構	キャリアガイダンス部門特別研究員 (関西大学教授) (2009年4月より)
渡部 昌平	前・厚生労働省能力開発局キャリア形成支援室長補佐	(2009年3月まで)
山下 禎博	厚生労働省能力開発局キャリア形成支援室長補佐	(2009年4月より 2010年1月まで)
小松 恭子	厚生労働省能力開発局キャリア形成支援室	キャリア・コンサルティング係長

目次

第1章 問題	1
1. 本研究の背景—経済社会の変化と成人キャリアへの注目	
2. 本研究における調査対象者	
3. 調査の概要	
4. 各章の主な内容	
第2章 50代就業者の現在の満足感	19
1. 現在の満足感を構成する諸要因に関する分析	
2. 現在の満足感と未来展望との関連	
3. まとめ	
第3章 50代就業者のライフイベントと成人キャリア発達との関連の検討	39
1. はじめに	
2. 分析の視点	
3. これまでの職業や経歴に関する回答結果	
4. 「これまでの職業や経歴に関するライフイベント」と「これからの職業や経歴に関する考え方」との関連	
5. まとめ	
第4章 50代就業者のキャリアの描像①	
—ライフライン法による成人キャリア発達の検討	77
1. 本章の目的	
2. ライフライン法による曲線の全般的特徴と時代背景の影響	
3. ライフライン法による回答者の基本的属性との関連	
4. 現在の勤務先属性別のライフラインの傾向	
5. これまでのキャリアとライフラインの傾向	
6. これまでのキャリアに対する意識とライフラインの傾向	
7. これからのキャリアに対する意識とライフラインの傾向	
8. 8つの曲線パターンの抽出	
9. 重回帰分析による検討	
10. 本章の結果のまとめと示唆	

第5章 50代就業者のキャリアの描像②

ーライフライン法のキャリア形成支援ツールに向けた検討111

1. 本章の目的
2. ライフライン法の解釈にあたって本研究で着目する指標
3. 各指標の基礎統計量
4. 回答者の属性別にみた各指標の傾向
5. 最初の勤務先の特徴別の各指標の傾向
6. 収入別にみた各指標の傾向
7. 現在の勤務先属性別にみた各指標の傾向
8. 転職経験または失業・休職経験別の各指標の傾向
9. これまでのキャリアに対する意識別の各指標の傾向
10. 本章のまとめ

第6章 50代就業者のキャリアの意味づけー自由記述データを用いた検討145

1. 本章の目的
2. 本章で分析する自由記述課題
3. 過去の職業生活上の危機について
4. 職業生活上の危機をどのように乗り越えたか
5. 職業生活上の危機に対する支援ニーズ
6. これまでの職業生活に対する感じ方・考え方
7. まとめ

第7章 成人キャリア発達支援に向けて181

1. 成人のキャリア発達について注目される事項
2. 成人に対するキャリア形成支援施策への示唆
3. 成人のキャリア形成支援ツールとしてのライフライン法

資料

調査票

単純集計結果